千曲都市計画道路の変更等に関する地元説明会

（一重山線の変更及び屋代東線の廃止）

千曲市　建設部都市計画課

令和5年（2023年）

説明事項

1. （都）一重山線及び（都）屋代東線の概要
2. （都）一重山線の変更
3. （都）屋代東線の廃止
4. （都）一重山線（中交差点～県立歴史館）の調査
5. 今後の予定

1. （都）一重山線及び（都）屋代東線の概要
（1）（都）一重山線の概要



【名称】
3･4･13　一重山線
【起点】
大字八幡字八日市場
【終点】
大字屋代字高畑
【総延長】
約6，340m
【当初決定】
昭和40年3月

市内を東西に結び、流入交通を分散させるバイパス機能を持った市の重要な幹線道路として位置付けられている。

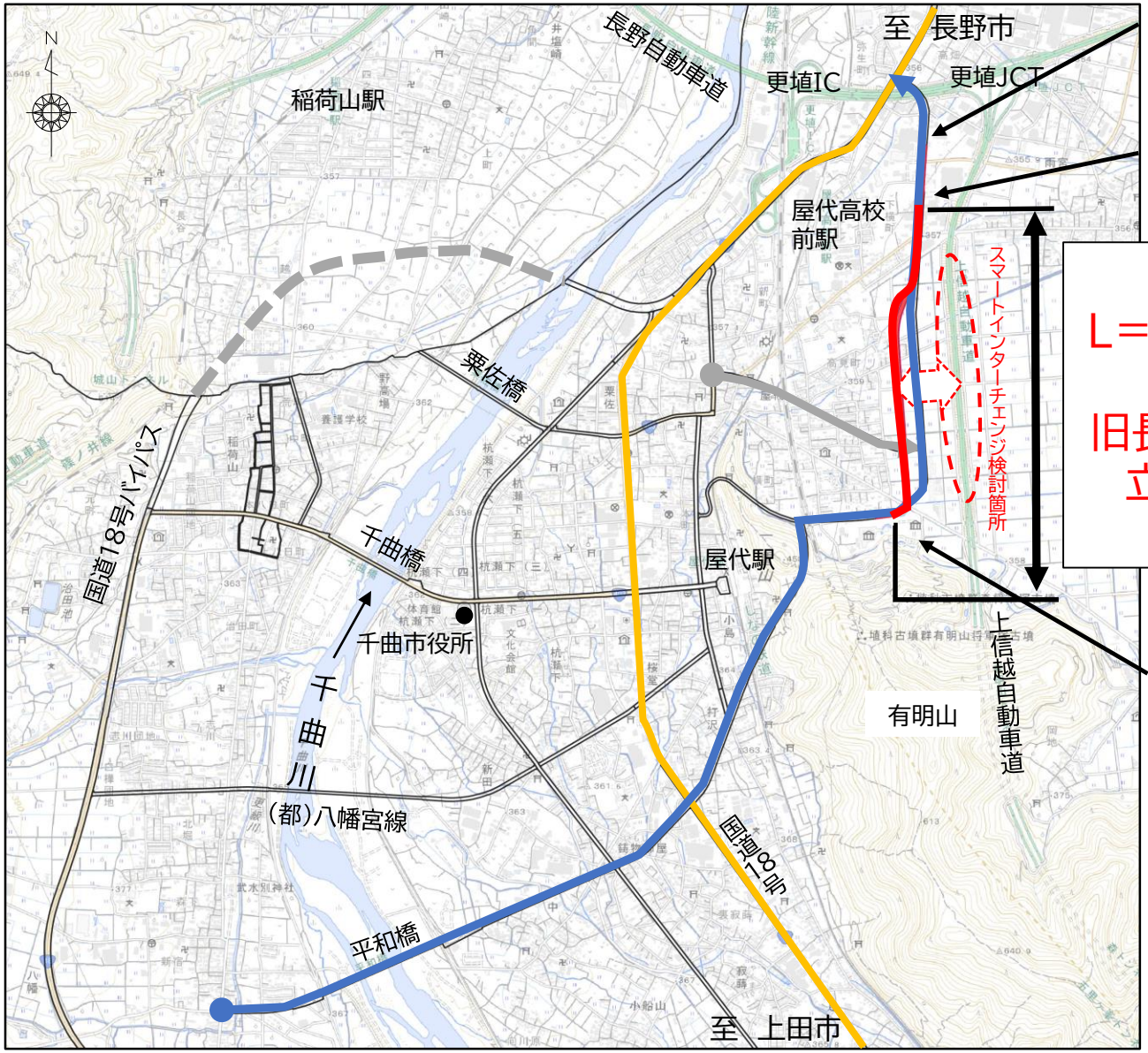
1. （都）一重山線及び（都）屋代東線の概要
（2）（都）屋代東線の概要



【名称】
3･4･16　屋代東線
【起点】
大字屋代字新町
【終点】
大字屋代字返町
【総延長】
約1，010m
【当初決定】
昭和40年3月

（都）旧国道線と（都）一重山線を結ぶ地域幹線街路であり、高度経済成長期の人口増加、交通量の拡大、市街地の拡大などを背景に、昭和40年に都市計画決定された。

2.（都）一重山線の変更
（1） 変更区間



③ 屋代工業団地付近
完成区間

② 屋代工業団地付近

変更区間
L＝約1，590m　W＝20m

旧長野電鉄屋代線交差部分
立体交差　→　平面交差
25m　→　20m

① 県立歴史館付近

2.（都）一重山線の変更
（2） 現況写真

① 県立歴史館付近



② 屋代工業団地付近



③屋代工業団地付近（完成区間 幅員20m）



2.（都）一重山線の変更
（3） 変更理由

本区間の約200m東側に並行している上信越自動車道において、（仮称）屋代スマートインターチェンジが準備段階調査に着手し、詳細な検討を進める中で、スマートインターチェンジとの接続構造を勘案して、（都）一重山線の位置及び区域を変更するものである。

また、長野電鉄屋代線の廃止（平成24年）に伴い、この区間の立体交差を平面交差の構造とし、この区間の幅員を25mから20mに変更するものである。

2.（都）一重山線の変更
（4） 新旧対照表

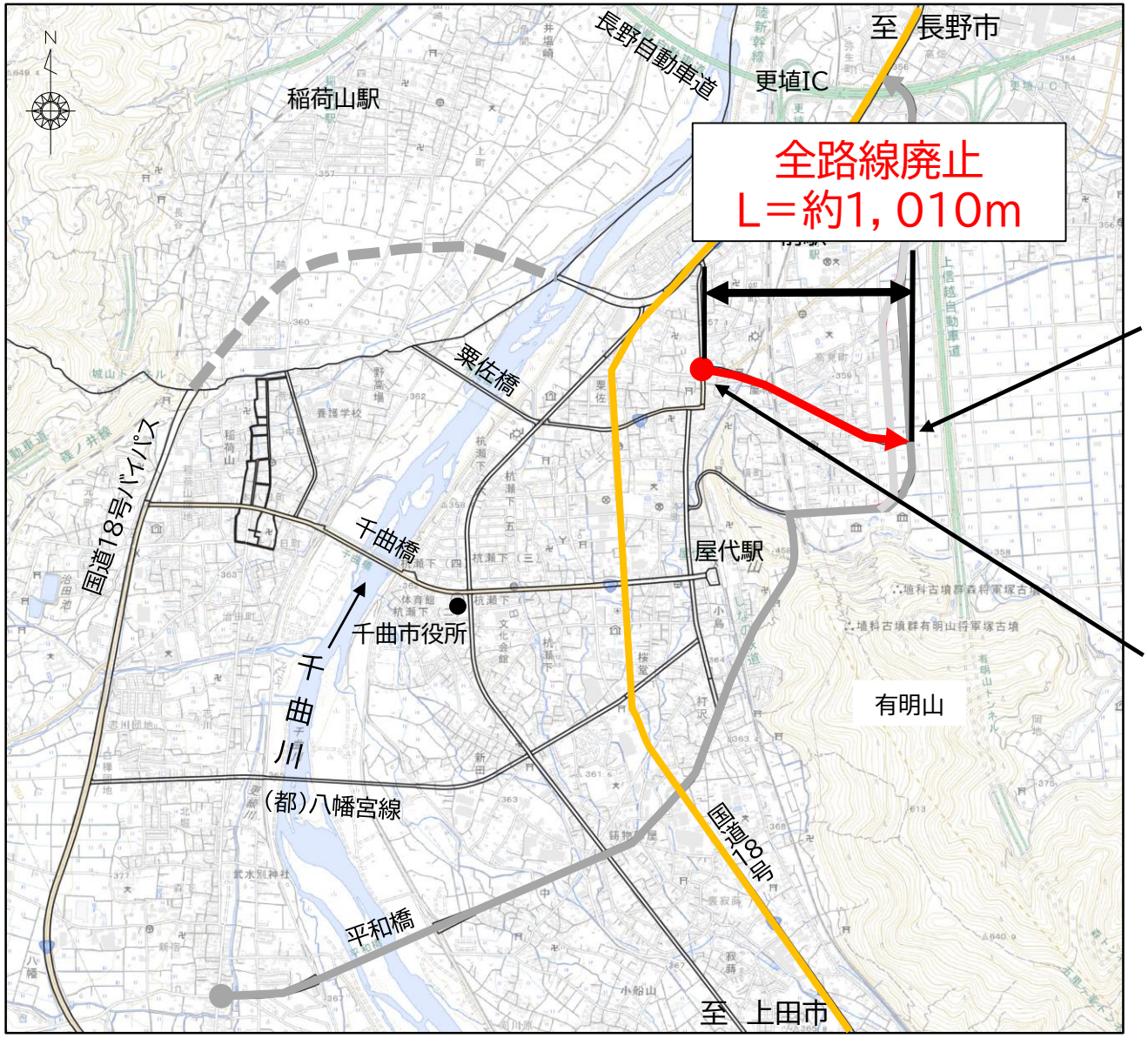
（旧）

種別	名称		位置			区域	構造				備考
	番号	路線名	起点	終点	主な経過地	延長	構造形式	車線の数	幅員	地表式の区間における鉄道等との交差の構造	
幹線街路	3･4･13	一重山線	千曲市大字八幡字八日市場	千曲市大字屋代字高畑	千曲市大字打沢字大坎	約6,340m		2車線	20m		
	構造形式の内訳		千曲市大字八幡字向川原	千曲市大字中字前久保		約580m	嵩上式		12m		
			千曲市大字小島字東山	千曲市大字屋代字一重山		約440m	地下式		10.25m		
						約5,320m	地表式		14～25m	しなの鉄道と立体交差 1箇所 長野電鉄屋代線と立体交差 1箇所 北陸新幹線と立体交差 1箇所 幹線街路と平面交差 6箇所 長野自動車道と立体交差 1箇所	

（新）

種別	名称		位置			区域	構造				備考
	番号	路線名	起点	終点	主な経過地	延長	構造形式	車線の数	幅員	地表式の区間における鉄道等との交差の構造	
幹線街路	3･4･13	一重山線	千曲市大字八幡字八日市場	千曲市大字屋代字高畑	千曲市大字打沢字大坎	約6,310m		2車線	20m		変更区間 L=約1,590m、 W=20m、 ルート及び幅員の変更
	構造形式の内訳		千曲市大字八幡字向川原	千曲市大字中字前久保		約580m	嵩上式		12m		
			千曲市大字小島字東山	千曲市大字屋代字一重山		約440m	地下式		10.25m		
						約5,290m	地表式		14～20m	しなの鉄道と立体交差 1箇所 北陸新幹線と立体交差 1箇所 幹線街路と平面交差 6箇所 長野自動車道と立体交差 1箇所	

3.（都）屋代東線の廃止
（1） 廃止区間



（都）一重山線交差点

（都）旧国道線
高見町交差点付近

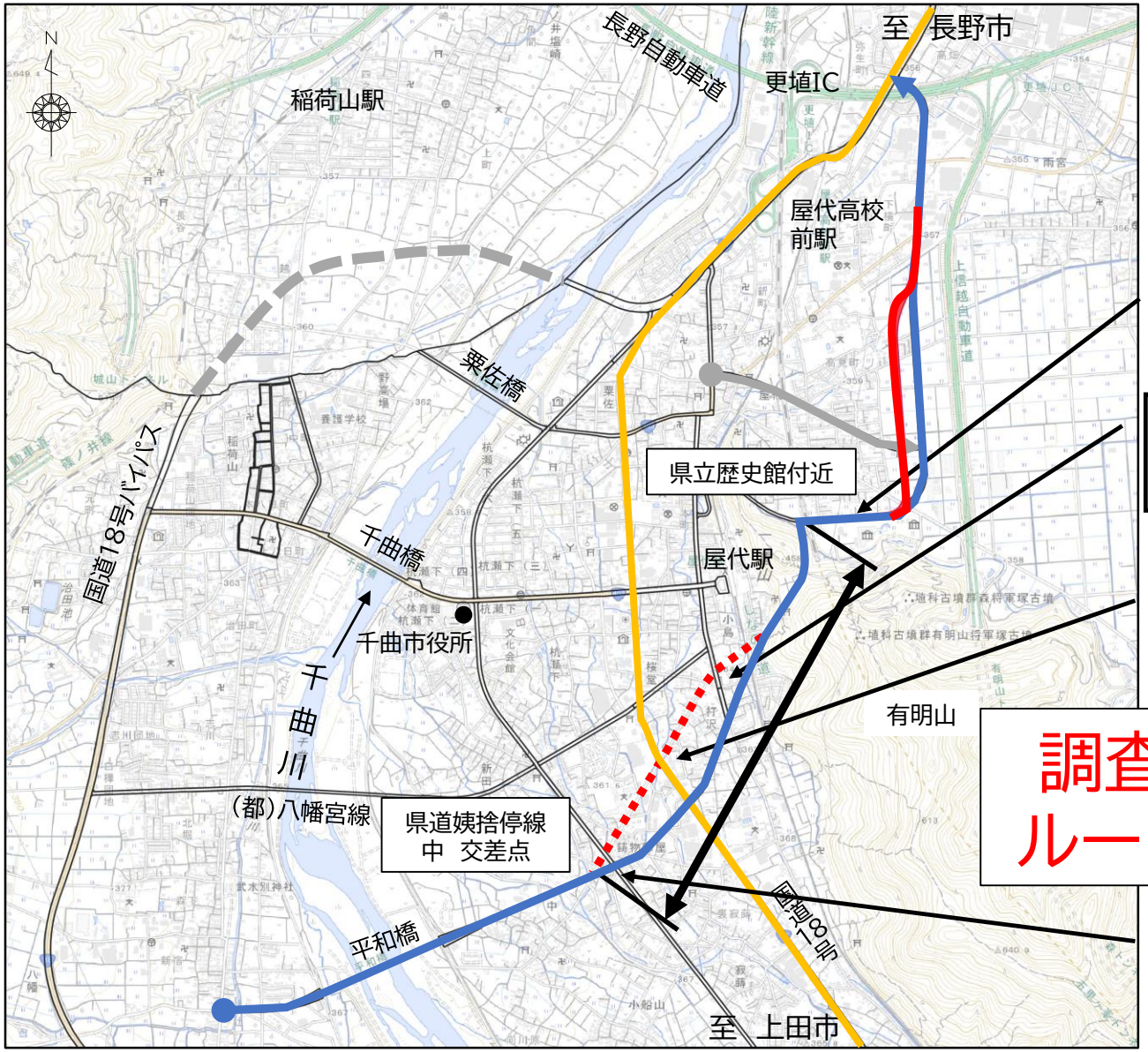
3.（都）屋代東線の廃止
（2） 廃止理由

（都）屋代東線の南側約200mに並行して県道白石千曲線が整備されており、当初、（都）屋代東線に計画されていた都市防災機能（延焼遮断機能の保持）及び収容空間機能（ライフラインの収容）を代替していること。

県道白石千曲線については、本市の緊急搬送路に指定され、交通機能を担う幹線道路として重要な役割をはたしているが、しなの鉄道との平面交差、及び（都）旧国道線のクランク交差点構造等（須々木水神社付近）により慢性的な渋滞が発生していることから、県道白石千曲線のバイパス機能を有する（都）一重山線の整備に一部着手し、今後、本市の東西を結ぶ連絡軸として（都）一重山線の段階的な整備を計画していること。

上記理由から、現道が無く実現性が乏しい本路線に、建築規制などの制限を残し続けることは望ましいことではないことから廃止する。

4. （都）一重山線（中交差点～県立歴史館）の調査
（1） 検討区間



④ 県立歴史館付近

③ 市道打沢新道
市道埴生本線交差点

② 打沢 交差点

調査を行い
ルートを検討

① 中 交差点

4. （都）一重山線（中交差点～県立歴史館）の調査
（2） 現況写真

① 中 交差点



② 打沢 交差点



③ 市道打沢新道 市道埴生本線 交差点



④ 県立歴史館付近



4.（都）一重山線（中交差点～県立歴史館）の調査
（3） 調査の趣旨

（都）一重山線の中交差点から県立歴史館付近までの区間は、平成4年10月の都市計画決定時の線形であり、現時点で大部分は現道が無く未整備となっている。

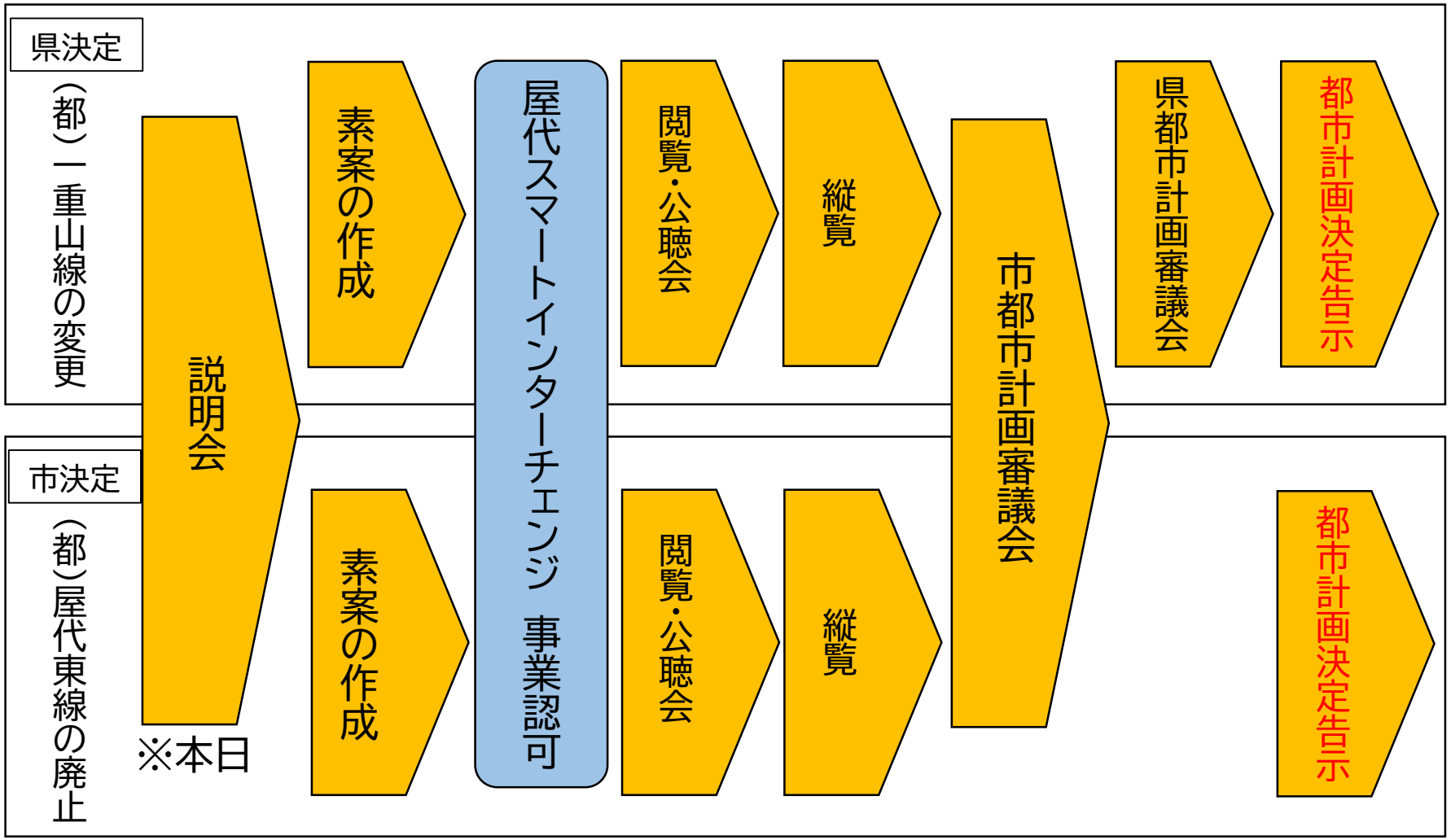
平成22年度に策定し、令和2年度に改訂した道路整備プログラムにおいて、社会情勢の変化に対応し、既存道路を有効活用する道路網に見直すことにより、効率的な道路整備が行えるようにしていく必要があるとして、（都）一重山線の埴生地区の区間については、市道打沢新道線及び県道姨捨停線を通る線形を変更案としている。

今年度より、市道打沢新道線及び一重山を越えるルート選定のための調査を行い、住民の皆さまの意見をお聞きしながら、都市計画道路一重山線の都市計画変更案について検討していきたい。

5．今後の予定
（1）（都）一重山線の変更及び（都）屋代東線の廃止

屋代スマートインターチェンジの進捗に併せて手続きを進めます。

（都）一重山線は県決定、（都）屋代東線は市決定ですが、併せて手続きを進めます。



5. 今後の予定
（2）（都）一重山線（中交差点～県立歴史館）の調査

